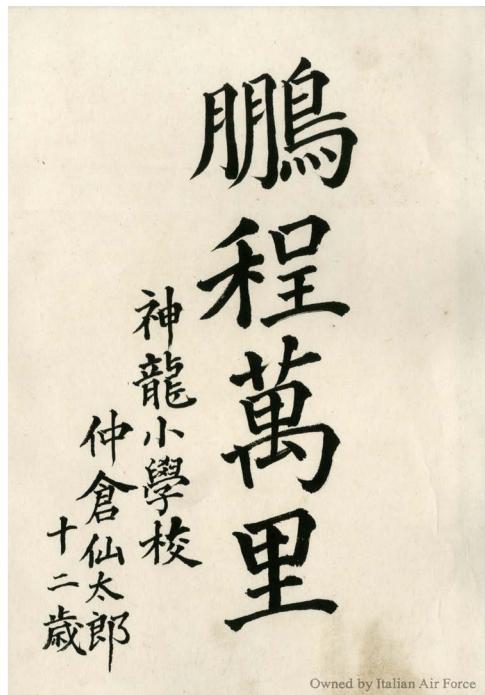


## 仲倉 仙太郎

(当時12歳)

イタリア空軍博物館所蔵



記念帖作者の名前を調べていくと、  
とある鉱山についての論文の作者として  
「仲倉仙太郎」の名がありました。

そこから辿り着いたのは、ご子息の仲倉重郎氏。  
映画監督、脚本家、作詞家です。

仲倉重郎氏 Facebookより



ご子息の仲倉重郎氏

父の書がフィレンツェにあった!

先日、はるかイタリアのフィレンツェに住む道原聰という人からFBの申請があつたので、珍しいことと思いOKしたら、もっと思いがけないことが分かった。

道原氏は20年も前からフィレンツェに渡って、大正時代に日本から送られた小学生の書画を調べている。

その中に、ぼくの父の名前の書（習字）があるので、父と同一人物かとの問い合わせがあったのだ。父は「仙太郎」と言い、習字が得意で、ぼくが小学校の時、夏休みの宿題が間に合わ

なくなつて最終日に父に書いて貰つたことがある。年齢的にもぴったりなので父に間違ひなかった。

1920年（大正9年）、ライト兄弟が飛行機で飛んだ17年後の事、イタリアから飛び立った双発の飛行機がアジア大陸を横断して日本に到着した。飛び立った時は11機だったそうだが、日本に着いた2機が代々木の練兵場にたどりついた。

その飛行士を助けてイタリアに送り返した時、時の貞明皇后が記念に東京市（当時）の小学生の書画を募集して、各校の代表作を2冊の記念帳にして送ったそうだ。そんなことがあったとは父には聞いたことがなかつたのでびっくりだつた。

早速道原氏が写真を送ってくれた。「鵬程万里」という莊子の言葉を書いたもので、署名は「神龍小學校 仲倉仙太郎 十二歳」とある。父の字に間違ひない。早速、額に入れて仏壇に飾つた。

(神龍小学校は神田にあったが1966年になくなった)

父は二人兄弟の長男だったが、小学校を出ると、一中、一高、東大と進んだ。貧しい運送屋の息子だったから、出藍の誉れというべきだろう。弟は小卒である。大学では鉱山学科に進み、伊豆湯ヶ島の持越金山、青森県の三沢鉱山、札幌の豊羽鉱山を経て、昭和15年に朝鮮黃海道の鉱山に転勤し、そこでぼくは生まれた。

戦後の引き上げの苦難は相当なものだったが、1945年(昭和20)10月にはもう引き上げてきた。それは朝鮮人の工員たちの親切に色々助けられたからだという。父は工場長をやっていたが、工員たちが親切してくれたのは、父が高圧的な態度ではなかったからではないかと思っている。それは神田の貧しい運送屋の体の血だと思いたい。

日本人は、倉庫みたいなところに監禁されたが、工員だった朝鮮人の助けがあって脱走し、その案内で山道を歩いて南にたどり着いたという。ぼくはまだ4歳直前だったので、時々案内人におんぶしてもらって夜道を歩き、ようやくソウル(京城)に到着した。イムジン河であろうか、38度線の急流の河を渡った記憶がある。



父・仙太郎

祖母・きん

流れが激しく何もの人が流れられたという。

そこから日本にたどりつくまでもいろいろ苦労があったが、ともかく10月には三重県の母の親戚に身を寄せることが出来た。

父は34歳の時、徴兵された。そんな年で徴兵というのは信じられないが、なんでも当時の上役の覚えが悪かったからだという。軍隊では昇官試験を受けなかったので、終戦時は上等兵だった。父はあまり軍隊の話はしなかったが、<フケメシ>というのを聞いたことがある。上官の食事の支度をするのだが、評判の悪い上官の飯の上で、頭をかきむしってフケを払ったという。

まあ、そんなこんなで引き揚げてからもいろいろ苦労があって、富山県黒部市、神奈川県藤沢市、東京都武蔵野市と転々としたが、ついに故郷の神田には住むことはなかった。

本籍は内神田1丁目1番地で、そこに借家が立ち並んでいたが、今は首都高速の神田橋の入り口になっている。

## 仲倉 重郎 (なかくら しげお)

東京大学文学部を卒業した1965年(昭和40)、松竹大船撮影所に助監督として入社。

1983年に『きつね』で映画監督デビュー。映画やテレビドラマ、ドキュメンタリーで監督や脚本を手がけるほか、作詞家としても活動する。

### 主な作品

2014年	マンゴーと赤い車椅子 (監督/脚本)	1981年	魔性の夏 四谷怪談より (監督補)
2010年	ふるさとは温かだった (脚本 TV)	1981年	ざ・鬼太鼓座 (脚本/助監督)
1998年	維新を予告した一枚の写真 (監督/構成 TV)	1981年	ドン・キホーテ (作詞)
1994年	銀行 (脚本 TV)	1977年	江戸川乱歩の陰獣 (脚本/助監督)
1987年	別れの予感 (監督 TV)	1977年	憧憬 あこがれ (脚本/助監督)
1986年	天平の王道 真備と清麻呂 (監督 TV)	1976年	冬の日の子守歌 (作詞)
1984年	刑事の愛した女 (監督 TV)	1975年	再会 (脚本/助監督)
1983年	きつね (監督)	1975年	くいしん坊のカレンダー (作詞 NHKみんなのうた)